

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1 部 2 年	子どもとリズムダンス	宮崎 晃子	
サブタイトル	身体機能の向上とリズムダンスの創作	単 位 数	1
授業形態	演習		
開講時期	後期	出席要件	4 / 5 以上
到 達 目 標			
自らの身体機能の向上と、幼児が、リズムに合わせて楽しく身体を動かすことができる作品を、創作することを目的とする。 1. エアロビック・ダンス・エクササイズを通して、身体調整力などを体得することができる。 2. 幼児のリズムダンスの可能性や意義について、自分なりの考えをもつことができる。 3. 幼児が楽しく動けるリズムダンスを創作することができる。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
1. 身体機能についての理解を深め、明確に動く技能を身につける。 2. 幼児のリズムダンスにおける表現を、肯定的に受けとめ、適切に援助できる力を身につける。 3. グループ作業を通して、周りと協働しながら主体的に問題解決する態度を身につける。			
授 業 の 方 法			
1. エアロビック・ダンス・エクササイズの演習を行う。 2. 身体機能ならびに作品創作について説明する。 3. グループで作品を創作する。 4. 作品発表を実施し、意見交換を行う。 5. ノートに、気づきや要点を記入し、授業内容を整理・確認する。			
テキスト・教材・参考図書			
教 材 等：授業内で別途指示する。 参考図書：『エアロビクス指導教本』 鈴木智子著 明和出版 2016 年			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
実技と併せて、課題ごとの提出物や小テスト、期末のレポート（ノート）の提出など総合的に評価する。 課題の詳細はその都度授業内で知らせる。		レポート	40%
		実技・作品など	40%
		小テスト	10%
		授業への貢献度	10%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
1. ホールでの授業は体操服を着用する。足元は、運動用（室内）シューズ。 2. B 5 または A 4 サイズのノートを使用する。 3. 授業中のモバイル機器の使用は、動画撮影ならびに音楽再生のみ許可する。 長年にわたり、作品創作や後進の育成を行ってきた経験を活かして、表現あそび（ダンス）について指導します。			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1 回	【ガイダンス】授業内容の確認、進め方の説明を行う リズムダンスについて理解する	科目の理解 心構え
2 回	【リズムダンスの基礎①】エアロビック・ダンス・エクササイズを通して、基本ステップを習得する	体力 身体の調整力 リズム感
3 回	【リズムダンスの基礎②】エアロビック・ダンス・エクササイズを通して、基本ステップを習得する	体力 身体の調整力 リズム感
4 回	【リズムダンスの基礎③】エアロビック・ダンス・エクササイズを通して、基本ステップを習得する	体力 身体の調整力 リズム感
5 回	【リズムダンスの応用①】基本ステップを組み合わせた創作に取り組む	発想力 創造力
6 回	【リズムダンスの応用②】創作したフレーズに、腕の動き、方向転換、アクセントなどを加える	発想力 創造力
7 回	【リズムダンスの応用③】創作したフレーズを反復練習して、よりいきいきと動けるようにする	自己を客観視する力 向上心
8 回	【リズムの探求】リズムに特化したムーブメントを通して、自己のリズム、他者のリズムを体感する	自己理解 他者理解 身体的共感力
9 回	【リズムダンスの応用④】 2～3人組になり、課題曲の歌詞や構成を把握する。ステップ、腕の動きなどを創作する	発想力 創造力 協同・協働
10 回	【リズムダンスの応用⑤】 応用④で創作した作品を発表する。意見交換を通して、改善点を見つけ、修正し、さらに精度を上げる	身体の調整力 自己を客観視する力
11 回	【リズムダンスの創作①】 グループになり、課題「子どもが楽しく動けるリズムダンス」に取り組む。曲を決定し、歌詞や構成を把握する	協同・協働
12 回	【リズムダンスの創作②】 課題「子どもが楽しく動けるリズムダンス」に取り組む。ステップ、腕の動きなどに加え、作品構成も考える	発想力 創造力 協同・協働
13 回	【リズムダンスの創作③】 課題「子どもが楽しく動けるリズムダンス」に取り組む。隊形移動も加え、より独創的になるよう工夫する	身体の調整力 創造力 協同・協働
14 回	【総まとめ】課題「子どもが楽しく動けるリズムダンス」を発表する。自らの身体機能の向上ならびにリズムダンス習得の成果を確認する	身体の調整力 協同・協働 自己課題の明確化